

# 講演会

空間に生きる画家 猪熊弦一郎 ー民主主義の生活空間と造形の試み

## 開かれた空間 1950 年前後の芸術的可能性



1945 年、本土空襲や原爆投下を経て長く続いた戦時体制が終わりを告げました。敗戦国日本はどのように文化的復興を遂げようとしたのか。再出発のなかで求められた新たな造形表現の理想。それはジャンルを超えた自由な空間へと開かれたものでした。その可能性を追求した表現者の一人が猪熊弦一郎でした。いまなお輝くその時代の芸術的可能性についてお話しします。

日時 2021 年 ~~5月2日(日)~~ 5月30日(日)

13:30~15:00 (13:00開場)

会場 香川県立ミュージアム

地下1階 講堂 聴講無料

猪熊弦一郎 慶應義塾大学学生ホール壁画《デモクラシー》

1949年 谷口吉郎設計 慶應義塾大学蔵 平山忠治撮影 ©The MIMOCA Foundation

みずさわ つとむ  
講師 水沢 勉 氏

神奈川県立近代美術館館長、当館展示企画アドバイザー。1952年生まれ、神奈川県出身。1978年、慶應義塾大学大学院修士課程修了。同年、神奈川県立近代美術館学芸員。2011年、館長就任。日本とドイツ語圏の近代・現代美術におもな関心を抱く。主な担当展覧会に「萬鉄五郎」（1985年）、「オットー・ディックス」（1988年）、「舟越桂」（1993年）、第3回横浜トリエンナーレ「タイムクレヴァス」（2008年 アーティストイック・ディレクター）、「すべての僕が沸騰する 村山知義」（2013年）など、主な著訳書に『この終わりのときにも』（思潮社、1989年）、ヴェルナー・ホーフマン『ナナ』（PARCO出版、1991年）、クリスティアン・ネベハイ『グスタフ・クリムト』（岩崎美術社、1998年）、五十殿利治との共編著『モダニズム／ナショナリズム』（せりか書房、2003年）などがある。



### ■定員 100名（4月2日（金）より受付開始、申し込み順）

\*新型コロナウイルス防止の観点より、社会的距離の維持のため空席を設けて実施します。

\*来館時に検温および手指の消毒を実施します。37.5度以上の発熱の場合は入館することができません。

### ■電話、ファックス、はがき、「かがわ電子自治体システム」で下記へお申し込みください。

\*ファックス、はがきでお申込みの場合は、講演名、氏名、住所、電話番号を明記してください。

\*「かがわ電子自治体システム」を利用したインターネットからの申し込みは、香川県立ミュージアムホームページの「関連リンク」から「香川県 電子申請のページへ」をクリックしてください。

\*当館では、どなたにも利用しやすい施設運営を心がけており、身体に障害のある方やご高齢の方などに安心してご利用いただけるよう、車イスの貸出しなどを行っています（詳しい設備や対応については当館ホームページの「バリアフリー情報」をご覧ください）。

\*当館が行う各種イベントへの参加に当たって、合理的配慮や支援を必要とされる場合には、お申込みの際にその旨をお知らせください。